

大規模ケーブル式海底地震・津波観測網の比較

観測網	DONET	S-net
整備海域と観測点配置の考え方	南海トラフ沿いに整備。 巨大地震の震源(破壊開始点)はほぼ定まっていると考えられたことから、 <u>特定の海域に稠密に観測点を展開。</u>	日本海溝沿いに整備。 東北地方太平洋沖地震の余震域やその周辺の <u>広大な海域に、一定の観測点密度で展開。</u>
コンセプト	○海洋研究の総合プラットフォームとして機能し、観測点を更新できる、 <u>観測機器を脱着可能なシステム。</u> ○地震・津波の早期検知のみでなく、総合的な海洋研究インフラとして、特定の海域で様々な調査観測研究を行うのに適したシステム。	○深海底も含めて、多くの観測点を長期安定的に運用できる、 <u>ケーブル一体型のインライン方式のシステム。</u> ○長期間にわたり安定的に運用することを重視し、地震・津波を確実に早期検知し、防災・減災に活用することを特に重視したシステム。
整備費	約192億円 (DONET1:約75億円、DONET2:約117億円)	約324億円